



## アルツハイマー病の謎を解く

岩田修永, 西道隆臣著. -- 中外医学社, 2010.

REVIEWER

医学部人間健康科学科4回生

### アルツハイマー病はどこまで解明されているのか？

神経内科領域で患者数の多い病気のひとつに「認知症」がある。その原因疾患で第1位を占めるのがアルツハイマー病(Alzheimer's Disease:以下AD)である。本書はそのADについての知見が網羅的にまとめられている。第1章はADの基本的な病態(AβとTauを中心として)がまとめられており、第2章以降は遺伝子異常やAβについてより細かく述べられている。本書には最新の研究で報告された知見が詰まっており、さらに図・表などが多く用いられているので視覚的にも分かりやすい。第2章以降はさらに一步踏み込んだ内容となっており、全くの知識が無いと読みにく感じるかもしれない。しかしADについてある程度知っていれば、この一冊で「アルツハイマー病がどういったものなのか」、「どこまで研究が進んでいるのか」が理解でき、レビューとして読むことができるだろう。

冒頭に「網羅的にまとめられている」と述べたが、本書ではAβについては非常に細かく述べられているものの、Tauについての言及は比較的少ない。さらに本書は2010年に出版されており、日々アップデートされていく医学研究という観点からみると「時代遅れ」な部分もある。だが「アミロイド仮説」をはじめとする基本的な部分は押さえられており、ADの大まかな像を捉えて学ぶことができる。

本書は入門書としては少し敷居が高く、ADの研究に携わる人などに向いていると思われる。現在ADの研究をしている人にとっては「教科書」として、これから研究をする人にとっては「研究の切り口」として一役買うだろう。AD研究に興味のある人には是非とも読んでもらいたい。

受理：2017-01-17

493

75

197

医図開架

493

75

197

医人健開架